

令和7度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学6	学校名	県立土浦第一高等学校 附属中学校				課程				学校長名	プラニク ヨゲンドラ				
副校長名	日向 久					教頭名		浅野 洋平			事務(室)長名		諸岡 重彰			
教職員数	教諭	15	養護 教諭	1	常勤 講師	1	非常勤 講師	1	実習教諭 実習講師 実習助手	0	事務職員	5	技術職 員等	3	計	26
生徒数	小学科		1年次		2年次		3学年				合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女			男	女				
	普通科		40	40	39	39	40	39			119	118	6			

2 目指す学校像

項 目	詳 細
生徒	・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できるような成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認めた国際的視野を養うことを目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現を目指す。
教員	・自ら仕事の効率化を図り、心の余裕を持って業務内容の改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・常にリスクリングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を同僚及び生徒に還元し、全ての生徒の進路希望が実現することを目指す。
学校	・全人格的な成長を実現する中高6か年新進路指導計画によって、国内外から注目を集める日本一の学校を目指す。 ・整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良い教育基盤の構築を目指す。

3 現状分析と課題(数量的な分析を含む)

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	高度で難易度の高い学習内容を求めて入学してくる生徒が多い。受動的な学習スタイルからの脱却を図り、主体的な学習スタイルを目指し、深い理解につなげている。一方、自信をなくしてしまう生徒もあり、学習のサポート体制の充実が大切である。	生涯の学びの土台を築くために、高校への学習スタイルの移行を丁寧に進めていく必要がある。学問本来の面白さに気付き、自ら学ぼうとする姿勢を育てるため、ICT等の活用も含め、様々な面から知的刺激を与える必要がある。
進路指導	難関の国公立大学や医学部への進学を希望する多くの生徒が入学してくる。OBOGとの交流機会を多く持ち、将来の職業を考える取り組みを大切にしている。生徒自身の将来の希望をかなえるため、海外進学オリエンテーションなどを含めさまざまな取り組みを行っている。	自分の適性を知り、職業を知り、進路目標を持つ。学年ごとに段階的な指導をしていくことで、将来の進路を考える機会をより多く提供する必要がある。学習内容、行事などの実践的な意味を理解し、自己肯定感や達成感を持てるようにする。
生徒指導	基本的な生活習慣が身についた生徒が多く、安全・安心に学校生活を送れる環境にある。一方、登下校時の自転車の乗り方やバス乗車のマナー、さらにSNS利用について、指導する機会が増えている。	成人年齢が18歳に下げられ、これまで以上に高校段階で知っておかなければならないことが増えている。また、HRや授業、集会等を通し、いじめ防止に関する丁寧な指導がより大切になる。
特別活動	文化祭、体育祭などの学校行事が生徒主体で企画運営されている。集団活動を通して得られた達成感・自己肯定感は、何事にもかえがたい貴重な財産となっている。	活動内でのいじめ、同調圧力を防止するための策を講じる必要がある。部活動では、外部顧問を増やし、教員の負担を減らすのと同時に、専門的な指導を導入する必要がある。生徒数が減ったため、部活動の在り方を改めて考える時期に来ている。
働き方改革	昨年度時間外在校等時間における月平均時間は15時間23分、月平均45時間超過者は7.8%、月平均80時間超過者はいない。教員の働く時間は長く、考査が多く、採点の負荷なども多い。部活動の引率などにより時間割変更も頻繁に発生している。	AL型教授法の強化など授業改善の工夫が必要である。考査、採点の在り方についても、作問検討会の改善や採点ナビの有効活用など、様々な工夫が必要である。

5 中期的目標

項 目	詳 細
生徒	・自己分析、進路意識の育成:個人面談、キャリアガイダンスをより充実させ、生徒一人ひとりの高いレベルでの自己実現に向けて進路指導を強化する。 ・自ら学ぶ意欲の喚起:学力向上に資する特色ある教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力等を育むために、より効果的な教科指導を実施する。 ・健全な心身の育成:専門家による講演会、特別活動を充実させ、部活動・学校行事等を通して、自主自立の精神を培い、豊かな人間性を育む。 ・教育相談の充実:生徒の心情への理解を深め、より適切な指導・助言のあり方を探る。 ・グローバルリーダーの育成:独自の探究活動を展開し、世界の舞台で活躍できるリーダーの育成を目指す。
教職員・学校組織	・周辺の変化を意識:周辺が変化するスピードに惑わされず、自らの作業工程を分析し、常日頃の改善を工夫する。 ・働き方改革の推進:教員の心身の健康維持とWLBの向上に努めると共に、時間的・精神的に余裕のある教育活動を展開できるよう努める。 ・ベストプラクティスの共有:管理職・校務部・学年・教科間でベストプラクティスを共有し、互いを尊重し、学校全体の成長を目指す。 ・失敗を恐れない精神:全てのことに積極性をもって楽しく取り組む。失敗から学び、次に活かす。まずは、考えてみる、やってみるという精神を構える。 ・生徒ファーストの推進:教職員のWLBに配慮しながら、生徒の目線に立った指導を心がけ、何事においても生徒のメリット・利便性を優先して進める。

項 目	詳 細
学校全体	・信頼関係の育成:教師と生徒の信頼関係を深め、心の居場所が確保出来る学年・学級活動を運営する。 ・ICT活用の推進:授業改善を目指すと共に、生徒や教職員の情報活用への興味・関心を高める。タブレット等を駆使した教授法の研究や展開に努める。 ・中高一貫校の推進:高校と附属中学校が連携・協力し、互いの良さを学校の活力につなげ、生徒の一貫した育成につなげていく。 ・本校魅力の発信:入学希望者を増やすために、学校のHP・通信等を更に充実させ、本校情報を積極的に配信し、地域との連携を強化する。 ・管理体制の明確化、プロセス、ガバナンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な情報共有・管理を目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
主に生徒に関する こと	①基礎学力と応用力の向上:各教科の基礎知識を自主的にしっかりと身につけると同時に、論理的思考力・想像力・分析力・判断力・表現力・課題解決力といった応用的な力も高め、大学受験や将来の進路選択に備える。 ②自主的・協働的な学びの実践:授業内外で自ら課題を見つけ、調べ、考察し、発表する探究型学習を積極的に行い、グループワークやディスカッションなどを通して協働的な姿勢を養う。また、部活動や文化祭・体育祭といった学校行事に取り組むことで、仲間との絆を深め、責任感やリーダーシップを育てる。各教育活動においてしっかりした目標管理とスケジュール管理を行うことで充実度や満足度を高める。 ③グローバルな視野の獲得:修学旅行や留学、異文化交流、英語でのコミュニケーションの機会を活かし、国際社会での活躍と地元への貢献のための広い視野を養い、多文化理解を深める。国内外の様々な大会(模擬国連、ビジネスコンテスト、プログラミングコンテスト、数学オリンピック、科学の甲子園等)に積極的に参加し、チャレンジ精神やグローバルな視野の育成を図る。 ④人格の形成と社会性の育成:礼儀、思いやり、ルール遵守、自律的な行動、ストレスマネジメントやタイムマネジメントなど、人としての基本的な態度を身につけ、将来の社会生活に必要な人間力を高める。また、いじめを許さない心や、他者を思いやる心を育成するとともに、豊かな人間関係づくりを支援する。 ⑤進路実現に向けた主体的な準備:上記全てを網羅しつつ、自己分析と自己理解を通じて自分の興味・関心を深めながら、職業体験や進路ガイダンス、キャリアパスポートの活用、探究活動などを通して、自らの将来像を描き、進路実現に向けた目標を設定して努力する。
主に教職員に関する こと	⑥主体的・対話的で深い学びの実現:生徒の主体性を引き出す授業を設計・実践し、アクティブラーニングや協働学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成する。深い学びの場を提供することで、生徒による授業満足度3.5以上を目指す。 ⑦生徒理解と教育的支援の深化:生徒一人ひとりの個性・発達段階・家庭環境等を的確に理解し、学習面・生活面・進路面でのきめ細やかな支援を行うとともに、関係機関との連携も図る。キャリアパスポートの活用によるキャリア教育、進路支援を通して進路実現を支援する。 ⑧継続的な授業改善と研鑽の推進:「導入～授業～確認」を基本とした授業の流れを確立する。授業評価や研究授業、同僚との協働による授業研究などを通して、自らの授業力を絶えず見直し、向上させる姿勢を持つ。 ⑨ICTを活用した教育の充実:ICT機器やデジタル教材を効果的に活用し、学習の個別最適化や協働的な学びを実現するとともに、生徒の情報活用能力の育成に努める。自らや職場のICTリテラシーを高め、作業効率の向上に努める。 ⑩セルフマネジメントとコンプライアンスの確保:健康管理、身だしなみの管理、リスクリング、時間管理やWLBの向上に努め、教職員として持続的にパフォーマンスを発揮できるよう心身のバランスを保つ。教育者としての職責と公共性を自覚し、法令遵守・個人情報保護・ハラスメント防止などに留意した誠実な行動を実践する。
主に学校に関する こと	⑪学校ビジョンの明確化と共有:学校の方向性を明示し、生徒ファーストの精神を持って、生徒・教職員・保護者が一体となって目標に向かう風土をつくる。6か年(全日制中高)進路支援計画を構築し、オールラウンド教育、リーダーシップ育成を目指す。 ⑫生徒の多様な学びを支える教育環境の整備:明るくて清潔な教室、ICT機器や施設・設備の充実、安心・安全な学習環境づくりを進め、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる空間を整備する。また、インクルーシブ教育や心のケアにも配慮した支援体制を構築する。 ⑬教育活動の質的向上と学力・人間力の育成:授業改善、探究活動、国際理解教育、部活動などを通じて、生徒の学力・思考力・表現力だけでなく、主体性や協働性、豊かな人間性を育成する教育活動の充実を図る。 ⑭教職員の専門性向上と働きやすい職場づくり:教職員一人ひとりの資質・能力の向上を支援する体制を整えるとともに、業務の効率化・分担による働き方改革を推進し、教職員が安心して教育活動に取り組める環境をつくる。学校全体として法令順守に努める。 ⑮地域との連携・情報発信による信頼と共創の学校づくり:保護者・地域・企業・大学などとの連携・協働を深め、地域に開かれた学校としての役割を果たす。また、教育活動や成果について積極的に情報発信し、学校への理解と信頼を高める。